

2022年度 第4期拠点形成型 立命館グローバル・イノベーション研究機構 (R-GIRO) 研究プログラム 募集要項

1. R-GIRO 研究プログラムについて

2006年から開始した研究高度化中期計画では、本学が「グローバル研究大学」としての地位を国内のみならず海外でも獲得する目標を掲げている。世界水準の研究大学として認められるには、多くの優れた研究成果を創出せねばならない。その為、国際的に通用する研究体制および本学独自の取組が不可欠である。本学独自の取り組みとして、2008年に学長のリーダーシップのもと R-GIRO が設立され、2021年度より第4期となる研究高度化施策に基づき、第4期 R-GIRO 研究プログラムを実施する。

2. 第1期～第3期プログラムまでの経緯

R-GIRO の研究理念（目標）は、設立以来、一貫して「21世紀での日本の持続可能性を追求して、豊かな社会を構築し、最終的にはその成果を日本モデルとして世界に発信することで地球の持続可能性の追求に貢献すること」にある。

「地球の持続可能性の追求」とは何か？ 環境に軸足を置いた“エコロジカルフット・プリント”の視点では「地球上の生態学的な供給容量内（食料需給、エネルギーなど）で、人類をはじめ、多様な生態系が永遠に、生命を持続的に継承できる可能性の追求」である。究極的には人間の「生活の高度化」と「総人口」の掛け算が「地球の生態学的な供給容量内であるか否か」で持続可能性がほぼ決定される。現在の日本のような高度な生活が全世界の人々に波及すれば、当然、地球一個の生態系容量では賅えず、2個以上の地球が必要となり、地球の持続可能性が問題視されるのは必然である。この課題に対して、地球の「自然環境の変化」および「人口・年齢構成の変化」の2領域から生じる多様な問題を研究でも挑戦し、解決せねばならない。これらの課題は日本固有の問題ではなく、世界各国に共通する課題である。

この上位概念に沿って第1期および第2期プログラム（2008～15）は「自然環境の変化」に焦点を絞り、地球の自然回帰を目指した「自然共生型社会モデルの形成」を目標として多くの研究成果を創出してきた。一方、既に少子高齢化先進国である日本をはじめ、近い将来多くの国々で少子高齢化の荒波が押し寄せることが確実視されており、それから派生する諸問題に対しても「政策面」のみならず「研究面」からも真剣に取り組まねばならない。2016年度から開始した第3期プログラムでは、「人口・年齢構成の変化」に焦点を絞り、少子高齢化の危機をチャンスに変え、生命力と創造性あふれる「人間共生型社会モデルの形成」に軸足を置いている。2016年度および2017年度に採択された5つの研究拠点（Ⅰ～Ⅴ）の下、現在進行中のプロジェクトおよび各プロジェクトに属するグループリーダー名を参考のために表1に示す。

表1：第3期R-GIROの拠点名、プロジェクト名、グループリーダー名

第3期R-GIRO研究プログラム事例（5拠点、11プロジェクト、44チーム）					
領域	少子高齢化に対応する生命力と創造性あふれる人間共生型社会				
拠点	Ⅰ：若者が夢を持てる社会の形成と新しい文化の創造	Ⅱ：自然共生型社会モデルを支える科学・技術	Ⅲ：労働環境の刷新による生産労働者の活性化	Ⅳ：高齢者の生きがい・生産労働化	Ⅴ：地球規模での人間・社会の成長と存続
プロジェクト名	Ⅰ-A: シームレスな対人支援に基づく人間科学の創成 (PL: 矢藤優子)	Ⅱ-A: 90億人時代に向けた気候変動対応型農業の基盤創生 (PL: 三原久明)	Ⅲ-A: 先端材料に基づくロボティクス・イノベーション (PL: 川村貞夫)	Ⅳ-A: 次世代人工知能と記号学の国際融合研究拠点 (PL: 谷口忠大)	Ⅴ-A: 長期的人口分析に基づく持続型社会モデルの研究拠点 (PL: 矢野健一)
グループ名	①(矢藤優子Gr) ④(サトウタツヤGr) ②(岡本尚子Gr) ⑤(鈴木華子Gr) ③(安田裕子Gr)	①(三原久明Gr) ④(松村浩由Gr) ②(石水毅Gr) ⑤(深尾陽一朗Gr) ③(竹田篤史Gr)	①(川村貞夫Gr) ④(馬書根Gr) ②(堤治Gr) ⑤(小澤隆大Gr) ③(平井慎一Gr) ⑥(岡田志麻Gr)	①(和田隆広Gr) ④(青山敦Gr) ②(島田伸敬Gr) ⑤(西浦敬信Gr) ③(吉田寛Gr)	①(河角直美Gr) ④(高橋学Gr) ②(小川さやかGr) ③(矢野健一Gr)
プロジェクト名		Ⅱ-B: 暮らしのスマート・エネルギーイノベーション研究拠点 (PL: 峯元高志)		Ⅳ-B: からだ活性化総合科学技術研究拠点 (PL: 小西聡)	Ⅴ-B: 修復的司法観による少子高齢化社会に寄り添う法・社会システムの再構築 (PL: 若林宏輔)
グループ名		①(峯元高志Gr) ②(福井正博Gr) ③(島田幸司Gr)		①(小西聡Gr) ②(藤田卓也Gr) ③(藤田聡Gr)	①(森久智江Gr) ②(稲葉光行Gr) ③(松本克美Gr)
プロジェクト名		Ⅱ-C: 有機生命資源の有効利用による電子・光機能材料の創製 (PL: 前田大光)		Ⅳ-C: 感覚統合をコアとした健康行動継続学の創成 (PL: 塩澤成弘)	
グループ名		①(前田大光Gr) ②(民秋均Gr) ③(土肥寿文Gr)		①(塩澤成弘Gr) ④(李周浩Gr) ②(家光素行Gr) ③(伊坂忠夫Gr)	
プロジェクト名				Ⅳ-D: 視機能再構築に向けたシステム視覚科学研究拠点 (PL: 北野勝則)	
グループ名				①(川村晃久Gr) ②(小池千恵子Gr) ③(北野勝則Gr)	

3. 第4期R-GIROプログラムの申請にあたって

3.1 第4期研究プログラムについて

第4期プログラムは、第1-2期の「自然環境の変化への挑戦」および第3期の「人口・年齢構成の変化への挑戦」を融合して「地球共生型社会の実現」をプログラムの理念とする。第4期はこの理念の基、自然科学系と人文社会科学系の融合に代表される異分野結集型の研究拠点を形成し、新学術領域の創成および新技術や新しい社会モデルとなる制度／政策などの創出を行い、その成果を社会還元することを目的とする。

この「地球共生型社会の実現」プロジェクトでは、表2に示す通り、第Ⅰ拠点（地球の自然環境の復元）、第Ⅱ拠点（自然災害の克服）、第Ⅲ拠点（生産年齢人口減の克服）、第Ⅳ拠点（高齢者の健康増進と生き甲斐の追求）の4拠点を構成される。

3.2 公募するプロジェクトについて

今回の公募は第3期と同様、上記のⅠ-Ⅳの拠点到属するプロジェクトであり、プロジェクトは複数のグループから構成される。表2に、各拠点のプロジェクト候補名を記入したが、この名称はあくまで例であり、以下のキーワードと共に、プロジェクトの応募の際、参考にして頂ければ幸いである。

表2：第4期R-GIROの拠点名、プロジェクト案（プロジェクト名は参考のための仮称名）

第4期R-GIRO研究プログラム「地球共生型社会実現に向けた研究」の4拠点でのプロジェクト名(参考事例)とキーワード				
領域	自然環境の変化への挑戦に関する研究		人口・年齢構成の変化への挑戦に関する研究	
拠点	Ⅰ：地球の自然環境の復元	Ⅱ：自然災害の克服	Ⅲ：生産年齢人口減の克服	Ⅳ：高齢者の健康増進と生き甲斐の追求
プロジェクト候補	Ⅰ-A: 地下資源(地下資源(希少元素・化石エネルギー)の最適利用)	Ⅱ-A: 自然災害に対しての(ハード面での)防災	Ⅲ-A: 持続可能な地球共生型社会に適正な人口問題研究	Ⅳ-A: 高齢者の健康増進に関する研究
キーワード	・希少金属 ・再生化・代替材料 ・多様エネルギー ・蓄電および最適化 ・高付加価値物質創成など	・国土・構造物強靱化 ・多様性・柔軟性を有する災害ロボット ・災害予知／減災など	・適正人口の決定因子 ・国際的に多様な人口流動 ・移民に寛容な社会 ・ダイバーシティ立国など	・健康に関する教育・啓発活動 ・疾患メカニズム ・新治療戦略 ・安価な医療・介護 ・心の支援など
プロジェクト候補	Ⅰ-B: 太陽光を最大利用した食糧・肥料の創生	Ⅱ-B: 自然災害に対しての(ソフト面での)防災	Ⅲ-B: 人口減下でも経済成長を実現する新日本モデルの構築	Ⅳ-B: 高齢者の労働意欲の向上
キーワード	・自然にやさしい食科学 ・気候変動に強い新種食 ・再生可能な食糧・肥料 ・再生可能エネルギー ・エネルギーベストミックスなど	・地球温暖化による自然防災の脅威と防災 ・ICT技術による減災 ・ウイルス対策 ・未来の食糧拠点地域の探索・開拓など	・人間協調型多機能ロボット ・IoTものづくりシステム ・省労働・高付加価値産業 ・ソサエティ5.0 ・新農林・水産業 など	・ロボット支援による“手間なし”農業・漁業・林業・工業 ・高齢者の働く場の拡大 ・ワークエージングバランスの最適化など
プロジェクト候補	Ⅰ-C: 自然環境の保全および清浄化	Ⅱ-C: 自然災害に対する復旧(レジリエンス)	Ⅲ-C: 労働生産性向上に向けた社会システムの構築	Ⅳ-C: 人生100年時代の自己効力感に関する研究
キーワード	・大気汚染の浄化 ・水質汚染の清浄化 ・水の再利用 ・海水の淡水化 ・海洋環境の保全／砂漠の緑地化など	・災害者の救済支援 ・避難所アメニティー ・居住地の局在化(都市化)の改善など	・高生産性を旨とした行動・心理学、マネジメント ・職住融合のスマートシティの創出 ・女性の社会参画推進など	・人生100年時代の対人支援 ・高齢者の労働がもたらす次世代の日本の姿 ・物質欲から脱出した幸福感(文化・芸術など)の学際追求など

本プログラムでは、2021年度開始のプロジェクトは6プロジェクトを採択済（拠点Ⅰ：2件、拠点Ⅲ：1件、拠点Ⅳ：3件）。2022年度開始のプロジェクトも5～6プロジェクトの採択を予定している。各プロジェクトは、異分野が結集した3～5研究グループからなるものとする。各プロジェクトには「学術」、「技術」および「制度／政策など」に重点を置いたグループの混在が望ましい。また各グループ内は、個別課題の解決のために複数のチームを形成することも可能である。さらに、他大学および企業の参画、特に海外の大学との連携がなされている（または計画されている）ことが望ましい。大学院生（特に博士後期課程の院生）や女性研究者の参画を奨励する。

3.3 プロジェクトの構成員

プロジェクトはプロジェクトリーダー、グループリーダー、チームリーダー、専門研究員、研究員、大学院生（博士課程院生、主に後期課程）、研究メンバー、シニアアドバイザー**からなり、その資格・責務は以下に示す。（**R-GIRO 運営委員会から選任される）

プロジェクトリーダー	立命館大学の教授・准教授（専任教員）の資格を有し、「プロジェクト」全体の統括として、原則として本学在職中にプロジェクトを終了する義務を負う。プロジェクトリーダーの変更は原則認められない。プロジェクトを統括する責任者であり、プロジェクト全体の研究戦略・計画の構想作成・推進および研究成果報告書のまとめの義務を負う。さらに、各グループリーダーとの意見交換、研究への助言・指示・評価、その他の研究のためのマネジメントを行う。グループリーダー、チームリーダーを兼任することも可とする。
グループリーダー	立命館大学の教授・准教授（専任教員）、教授・准教授（任期制教員）、教授・准教授（特別招聘研究教員）の資格を有する、研究プロジェクトのもとに構成される各「研究グループ」の責任者であり、本学および産学官の各外部研究機関に所属する研究者を統括・指揮して研究計画の遂行、研究成果の取りまとめ、研究成果の公表など中心的な役割を果たす。また、プロジェクトリーダーを補佐する義務を負う。チームリーダーを兼任することも可とする。
チームリーダー	立命館大学の教授・准教授・講師（専任教員）、教授・准教授・講師・助教（任期制教員）、教授・准教授（特別招聘研究教員）、または産学官の各外部研究機関に所属する研究者の資格を有する、各研究グループのもとに構成される各「研究課題」の責任者で、グループリーダーと共同して、研究計画の遂行、研究成果の取りまとめ、研究成果の公表などに参画する。
専門研究員・研究員	本プログラムの予算で採用する専門研究員または研究員などの任期制若手研究者。
大学院生	立命館大学に在籍する大学院生で本プロジェクトに参画する者。ただし、各研究グループの人件費予算を用いてリサーチアシスタントとして雇用することができるのは後期課程在籍者のみとする。
研究メンバー	本プロジェクトに参画する、本学もしくは他大学の上記以外の研究者。
シニアアドバイザー	立命館大学の特別任用教授、特別招聘研究教員、招聘研究教員、客員教員、R-GIRO 顧問、上席研究員などの資格を有し、R-GIRO 運営委員会から選任される。プロジェクトリーダーを補佐し、プロジェクトの推進および他のプログラムとの連携を強化する。

4. 2022年度プロジェクトの募集内容のまとめ

研究拠点 I～IV	「拠点Ⅰ. 地球の自然環境の復元」「拠点Ⅱ. 自然災害の克服」「拠点Ⅲ. 生産年齢人口減の克服」「拠点Ⅳ. 高齢者の健康増進と生き甲斐の追求」の各拠点において、プロジェクトリーダーがプロジェクトを組織して応募（表1、2参照）。原則として複数のプロジェクトに跨った申請は認めない（表3参照）。
採択予定数	5～6プロジェクトの採択を予定。表2に示すように一つの拠点に複数のプロジェクトの採択も可とする。
研究期間	① 2022年4月～2027年3月末とする。期間中は原則としてテーマの変更は認めない。 ② 2024年8月に実施する中間評価により、2025年4月以降の継続/中断を決定する。
研究費使用制限	1プロジェクトにつき1,000～3,000万円/年度の範囲で助成する。 【対象となる経費の例】 ① 若手研究員の人件費（総額の80%程度） 専門研究員・研究員の人件費（処遇は雇用する職種の規程に遵守） ② プロジェクトの遂行に直接必要な経費（総額の20%程度） 物品費、旅費（研究メンバー）、招聘費、水・光熱費、博士後期課程院生の謝金など ※上記①②間の予算流用、ならびにグループを跨ぐ人件費および研究費の流用は認められません。

5. 募集・審査スケジュール(予定)

募集開始	2021年4月27日(火曜日)
説明会	2021年4月23日(金曜日) 12:20~12:50
申請書の提出締切	2021年6月21日(月曜日) 17:00(厳守)
第1次書類審査	2021年7月1日(木曜日)~7月28日(木曜日)
第2次書類審査	2021年8月24日(火曜日)~9月15日(水曜日)
ヒアリング審査	2021年10月8日(金曜日) 【書類審査を合格した課題のみ】
選定課題の通知	2021年10月中旬~下旬
実施計画書の提出期間	2022年1月中旬
研究開始	2022年4月1日(金曜日)

※上記の審査スケジュールは予定

6. 審査にあたって

6.1 審査委員会

R-GIRO 運営委員会のもとに研究プログラム審査委員会を設置し、委員会の構成員は、委員長（仲谷善雄機構長/立命館大学長）が指名する学内外の有識者から構成される。R-GIRO 運営委員会で定める審査ポイントに基づき、書類審査およびヒアリング審査を行う。採否は、審査結果に基づき、R-GIRO 運営委員会において決定する。

審査過程において、異分野結集による新学術領域の拠点形成を目指すため、プロジェクトリーダーに対して研究グループやチームの見直しを要請することがある。

6.2 審査過程

- (1) 申請調書提出
- (2) 書類審査
- (3) ヒアリング審査

書類審査で不明な点、確認すべき点、さらに異分野結集、研究拠点形成の推進計画、研究費予算計画についてプロジェクトリーダー（グループリーダーを含む）に対し面談を行う。

- (4) 採択決定
- (5) 実施計画書提出

書面およびヒアリング審査の結果を盛り込んだ実施計画書の提出を要請する。

6.3 審査のポイント

- (1) 第4期プログラムが掲げる理念と申請されたプロジェクトの理念に整合性のある計画となっているか。
- (2) プロジェクトおよび研究課題に独創性・革新性及び波及効果・普遍性があるか。
- (3) 研究成果として国際的な雑誌や学会で高い評価が得られる提案内容となっているか。
- (4) 自然科学系と人文社会科学系の融合など、異分野結集による新学術の創生および新しい技術や制度/政策等の創出について充分計画された挑戦的な内容となっているか。
- (5) 研究拠点形成に向けた推進計画・研究方法が妥当であるか、またそれを実施する研究環境となっているか。
- (6) プロジェクトの到達目標および明確なロードマップ（申請調書のP.13）が明示されているか。
- (7) 若手研究者（博士前期・後期課程学生を含む）の育成に取り組む計画となっているか。特に専門研究員・研究員を直接雇用し、期間終了後のキャリアパスも視野に入れた組織的な育成体制が構築されているか。
- (8) 研究課題に対する高い遂行能力（研究論文、特許、プロジェクトマネジメント等）を有していると判断できるか。

6.4 プロジェクトリーダーへの要望事項

- (1) 人文社会系、自然科学系との融合を積極的に行い組織形成し、常にプロジェクト内の組織を活性化させ、最大の成果を生み出す努力をすること。
- (2) 若手研究者を積極的に雇用し、育成すること。雇用する専門研究員や研究員の人选についてはその人物・能力を十分に評価し、研究期間終了後のキャリアパス（アカデミアだけでなく産業界など）も視野に入れた人材育成に努めること。
- (3) 戦略性を持った積極的な成果の外部発信に努めるとともに、知的財産権の確保に留意する。特に新聞やテレビ等のマスコミ報道については事前に R-GIRO 事務局に報告すること。
- (4) R-GIRO が主催する活動（例えば「R-GIRO シンポジウム」「初等中等教育に学ぶ生徒への科学技術等の啓発活動」等）に対し積極的に協力すること。
- (5) プロジェクトを継続的に発展させるための大型学外資金（例えば戦略的創造研究推進事業 (ERATO、CREST など)、学術変革領域、科研費/基盤 S、A など）の導入に努めること。

7. プログラムへの申請について

7.1 重複申請

重複申請の制限を表 3 に示す通りに行う。一例として、「プロジェクトリーダー」として応募し、かつ本プログラムへ応募された他のプロジェクトの研究課題に「チームリーダー」として参加することは可能である。それらの提案が双方採択候補となった際は、研究内容や規模等を勘案した上で、研究費の減額や研究内容、研究実施形態等の調整を行う。

表 3：重複申請の制限

Bプロジェクト→ ↓Aプロジェクト	プロジェクトリーダー	グループリーダー	チームリーダー
プロジェクトリーダー	申請不可	申請不可	申請可
グループリーダー	申請不可	申請不可	申請可
チームリーダー	申請可	申請可	申請可

7.2 研究高度化予算で支援される事業推進担当者の申請

2022 年度において「研究拠点形成支援プログラム」の代表者および事業推進担当者は、プロジェクトリーダーとしては申請できない。

8. 申請調書記載情報の活用について

本プログラムへ応募された研究課題のうちプロジェクトリーダーより了承を得られたものについては、申請調書に記載された研究情報を今後の産学官連携活動や研究高度化施策に活用する場合がある。なお、前述の研究情報の活用にあたっては、研究上のノウハウや知的財産に関する情報の保護と秘密保持に十分留意する。

9. 申請手続

申請にあたっては、下記の(1)、(2)を所定の申請様式に基づき記載する事。

- (1) プロジェクト参画者のこれまでに発表した論文、著書、産業財産権等、招待講演のうち、主に 2017 年以降を中心に、本プロジェクトに関連する重要なものを、プロジェクトリーダーおよびグループリーダーにおいては 10 件程度、それ以外の参画者においては 5 件程度選定し、記載する。
- (2) 研究グループ内の研究課題推進計画（プロジェクト開始時から終了時までの年度別）を記載したロードマップ（A4 で 1 枚程度/申請調書 P13）を作成し、記載する。

【申請期間】 2021 年 4 月 27 日（火）～2021 年 6 月 21 日（月）17:00 必着

【 提出先・問い合わせ 】

キャンパス	担当課・担当者
朱雀	〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1 立命館大学朱雀キャンパス 中川会館5階 研究企画課(武田・新川) 内線: 510-2410、510-2406 mail:kenkyul@st.ritsume.ac.jp
衣笠	〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 立命館大学衣笠キャンパス 修学館2階 衣笠リサーチオフィス(岡本・福野) 内線: 511-2548、511-2562 mail:kyodo-ro@st.ritsume.ac.jp
びわこ・くさつ	〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1 立命館大学びわこ・くさつキャンパス (自然科学系) 防災システムリサーチセンター3階 BKCリサーチオフィス(野村・向山) 内線: 515-6510、515-6537 mail:nomurayo@st.ritsume.ac.jp (人文社会系) アクロスウイング5階(三木) 内線: 515-2503、515-2504 mail:across@st.ritsume.ac.jp
大阪いばらき	〒567-8570 大阪府茨木市岩倉町2-150 立命館大学大阪いばらきキャンパス A棟8階 OICリサーチオフィス(宇治・中村) 内線: 513-2994 mail:oicro@st.ritsume.ac.jp

10. 採択プロジェクトの評価について

10.1 研究進捗の評価について

R-GIRO 運営委員会で定める審査基準項目により、研究目標の達成度、達成可能性について、評価委員会が採択プロジェクトに対して評価を行う。

- (1) R-GIRO 研究プログラム評価委員会は、R-GIRO 運営委員会のもとに設置され、幹事会委員、シニアアドバイザー、および委員長が指名する学内および学外の有識者から構成される。
- (2) 6ヶ月毎に評価基準に基づき研究の進捗状況の評価する。評価結果に基づき R-GIRO 運営委員会で諮り、研究内容の修正を要請する事がある。
- (3) 2024年8月に評価基準に基づき中間評価を行う。評価結果に基づき R-GIRO 運営委員会において2025年4月以降の継続/中断を審議・決定する。
- (4) 2026年3月末に評価基準に基づき最終評価を行う。評価結果は R-GIRO 運営委員会にて審議・裁定を受ける。

10.2 評価基準について

審査基準項目の達成度、達成可能性について5段階評価を行う。評価評定基準は採択拠点に対し別途、通知する。

11. 年次計画書と経費執行計画書の提出について

毎年度に年次計画書と経費執行計画書を提出し、R-GIRO 研究プログラム評価委員会においてヒアリング等による進捗の確認をする。問題点を R-GIRO 運営委員会にて審議し、内容の修正を要請する事がある。

研究者 DB 入力のお願ひ

研究者 DB は、研究業績やプロフィールを Web から公開するためのデータベースです。審査過程で参画する研究者に関して研究者 DB を参照することがあります。できるだけ多くの情報を入力していただきますようよろしくお願いいたします。詳細は、研究部ホームページ

(http://www.ritsume.ac.jp/research/member/researcher_login/index.html/) からご覧ください。